

長野市立東条小学校3学年 ― ぼくたち、わたしたちの SDGs

東条小学校3年生は、地元・松代の自然や生き物、地域の人々との関わりの中で、SDGsの視点をもって学びを深めてきました。授業や体験活動、交流を通じて、自然を守ること、命を大切にすること、他者を思いやることの大切さに気づき、自分たちにできる行動を見つけていきました。

命を育む飼育体験

理科や生活科の授業では、ナミアゲハや蚕、オオムラサキの飼育に取り組みました。ナミアゲハの卵からさなぎ、羽化までを観察する中で、「生き物の命が変化していく様子」に驚きと感動を覚えました。蚕を育てる体験では、桑の葉探しからはじまり、黒いフンを掃除したり、糸を吐いて繭をつくる様子に生命の営みの不思議を感じました。

また、地域の協力のもとオオムラサキの保護活動にも参加し、蜘蛛や鳥に食べられないように幼虫をネットで保護。秋には成虫が羽化する様子を見守りました。こうした体験を通じて、「自然の中で命が育まれている」ことに気づき、命を大切にする心が育まれました。

地域とのふれあいと交流の中で

高齢者施設「尚和寮」や「ホタルの里」との交流では、歌やダンスを披露し、笑顔と拍手に包まれた時間を共有しました。また、姉妹都市であるアメリカ・クリアウォーター市から来たALTとの交流では、国際理解にもつながる貴重な体験ができました。こうしたふれあいを通して、「自分たちの周りには支えてくれる人がたくさんいる」という実感と、「思いやり」の気持ちが芽生えていきました。

暮らしと地球をつなぐ SDGs の学び

総合的な学習の時間では、ゼロカーボンやプラスチックごみ、食べ残しの削減など、地球規模の課題と自分たちの暮らしの関係を学びました。エコバッグやリサイクルといった普段の行動が「地球を守ることにつながる」ことに気づき、家族とともにゼロカーボンチャレンジにも取り組みました。